

熱帯太平洋、熱帯インド洋及びインドネシア領海の各海域に生息する

外洋棲ウミアメンボの棲息密度

○原田哲夫（高知大・教育・環境生理）・大角裕貴、関本岳朗、井餘田航希、白木隆士、竹中志保、中城満（高知大・教育・環境生理）、Sam Wouthuyzen（インドネシア科学院）、片桐千仞（北大・低温研）

「白鳳丸」または「みらい」による 8 航海[熱帯太平洋域(MR-06-05-Leg 3, MR-08-02, MR-09-04, MR-10-03, KH-10-04-Leg 1,2), 熱帯インド洋(KH-07-04-Leg 1, KH-10-05); インドネシアのトミニ湾及びセレベス海(KH-09-05-Leg 7)]実施中に、ORI ネットまたはニューストーンネットによるサンプリングが行われた。サンプリング結果から外洋棲ウミアメンボ類の生息密度を求め、海域間で比較した。1km²当たり 10000 頭を超える高い密度でのツヤウミアメンボ(*Halobates micans*: 以下ツヤ) の棲息が北緯 0-10° , 東経 130-135° の西部熱帯太平洋域で推定された。陸水の影響を受けにくい同緯度で東経 147-156° の海域では、5000 頭/km²程度のツヤの推定棲息密度であった。これまで、コガタウミアメンボ(*H. sericeus*: 以下コガタ) の棲息は北緯 13-45° に限って報告されてきたが、赤道から北緯 12° の緯度範囲に含まれる 4 つのサンプリング海域で、2010-7100/km² の比較的中程度のコガタの棲息密度が推察された。本種は黒潮(KC)、北赤道海流(NEC)、ミンダナオ海流(MC)、北赤道反流(NECC)海流を渡り歩いている可能性が推察される。東インド洋では、ツヤが優占して棲息していたが、陸地に近い海域から西に離れるにつれて棲息密度が激減した。陸水の影響が考えられる。また、トミニ湾では 5.917 x 10⁶ 頭/1km² という極めて高い棲息密度での *H.sp2* の棲息が推定された。この推定棲息密度は、これまで熱帯大西洋域でのサンプリングで推定されたツヤの 208 x 10³ 頭を遥かに超える。この高い密度の棲息はトミニ湾の鏡のような海表面の穏やかさと関係しているかも知れない。